

牛久：学校周辺に見る自然

第1号 牛久自然観察の森

2019年4月8日発行

＜ 牛久自然観察の森で、“春”を楽しみました。～①樹木＞

みなさん、こんにちは。今年度も、よろしくお願ひします。何をするにも「平成最後の」と頭につくこの頃ですが、先日4月6日に、平成最後の花見をかねて牛久自然観察の森を歩いてきました。今回はその中から、木のなかまを紹介いたします。



花が先に開くソメイヨシノ（上、左下）と、花と葉が同時期に開くヤマザクラ（右下）。

まずは、今回の一番の目的、さくらです。満開だったのは、ソメイヨシノ。花が先に開きあとから葉が開いてくるのですが、気温などが同じ地域では同じ時期にいっせいに咲き、そしていっせいに散っていきます。じつは、このソメイヨシノ、種子ではふやせず、ふつうは接ぎ木で繁殖させます。つまり、新しくできたなかまは、同じ遺伝子をもったクローンなのです。今では北海道から九州まで広く植えられ愛されていますが、オオシマザクラとエドヒガンの間にできた雑種のクローンが広められたものと考えられています。ヤマザクラは花と同時期に葉も開きますが、同じ地域でも木によって早く咲くものもあれば遅いものもあります。開きはじめての葉が、赤茶色しているものが多いようです。



こちらは、ウワミズザクラ。まだ、つぼみ。葉が先ですね。似たような花をつけるイヌザクラとは、花の集まりの下に数枚の葉がつくことで見分けられます。ひたち野のみずべ公園にもあって何度か紹介してきましたが、花が咲くと甘い香りが漂い、虫たちが集まります。ひたち野うしく小、来週の4年生との観察にはまだ咲かないと思いますが、咲いたらぜひ匂いをかいでみて下さい。

花の集まりの下に数枚の葉がつくウワミズザクラ。



下向きに花を咲かせるモミジイチゴ（左）と、上向きに咲くクサイチゴ（右）。



さくらのなかまはバラ科というグループに入っていますが、他にもバラ科の樹木の花が咲いていました。キイチゴのなかまで白い大きな花を下向きに咲かせるモミジイチゴと、同じく白い大きな花をこちらは上向きに咲かせるクサイチゴ。名前は草…ですが、木のなかまでです。背が低くて草のように見えることからついた名で、5～6月に実が赤く熟します。モミジイチゴはもう少し後、6～7月にオレンジ色に熟し、あまずっぱい私の好きな実の一つです。

そして、こちらバラ科。まぶしいような黄色の花、ヤマブキです。絵の具のやまぶき色とは、この花のような色をいいます。さて、ここで問題。バラ科の花の特徴は何でしょう？比べてみましょう。答えが分かったら、たしかめに来て下さい。

まぶしいような黄色（やまぶき色）の花を咲かせるヤマブキ。

最後に、バラ科以外の樹木。茶色くなってほとんど花が終わっていたのはコブシですが、まだ咲き残っているものがありました。逆によく咲き始めたのがニワトコとイロハモミジ。ハナイカダのように、まだつぼみのものもありました。

【理科支援員：宮内】

まだ咲き残っていたコブシ（左上）。ようやく咲き始めたニワトコ（右上）とイロハモミジ（左下）。開き始めた葉に、すでにつぼみがついているハナイカダ（右下）。

